

2025年マレーシア市場 訪日インセンティブ旅行傾向 レポート

日本政府観光局(JNTO)
クアラルンプール事務所

- ・本レポートに記載されたデータは現地の旅行会社より入手した情報を基に、日本政府観光局（JNTO）クアラルンプール事務所がまとめたものである。
- ・団体数、合計人数等の数値は旅行会社から報告があったもののみを集計している。

2025年マレーシア市場訪日インセンティブ旅行傾向レポート

総括(1月～12月)

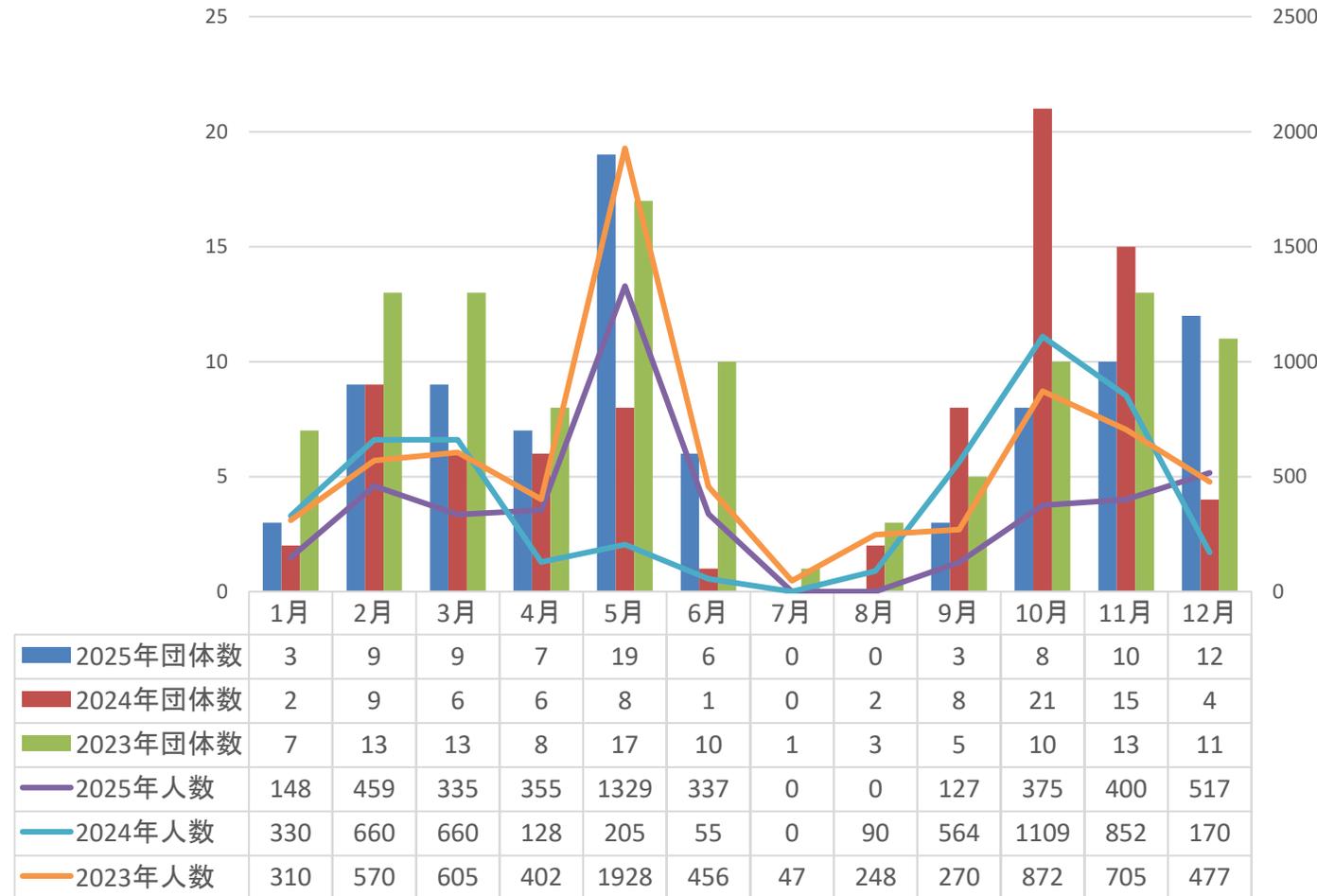
	2025年	2024年	2023年
団体数* <small>*同一主催者の複数グループが含まれている</small>	86団体	82団体	111団体
合計人数	4,382名	4,891名	6,948名
平均宿泊日数	5泊	5泊	5泊

❖ 2023年から2024年、2025年にかけて団体数が減少している理由

JNTO本部の支援メニューにおいて、「主要都市圏以外のエリアで最低1泊すること」や、「観光コンベンションビューロー(CVB)等から支援を受けている場合はJNTOの支援対象外」といった新たな条件が追加されたため、2024年以降の申請団体件数が減少している。

2025年マレーシア市場訪日インセンティブ旅行傾向レポート

月別団体数・人数

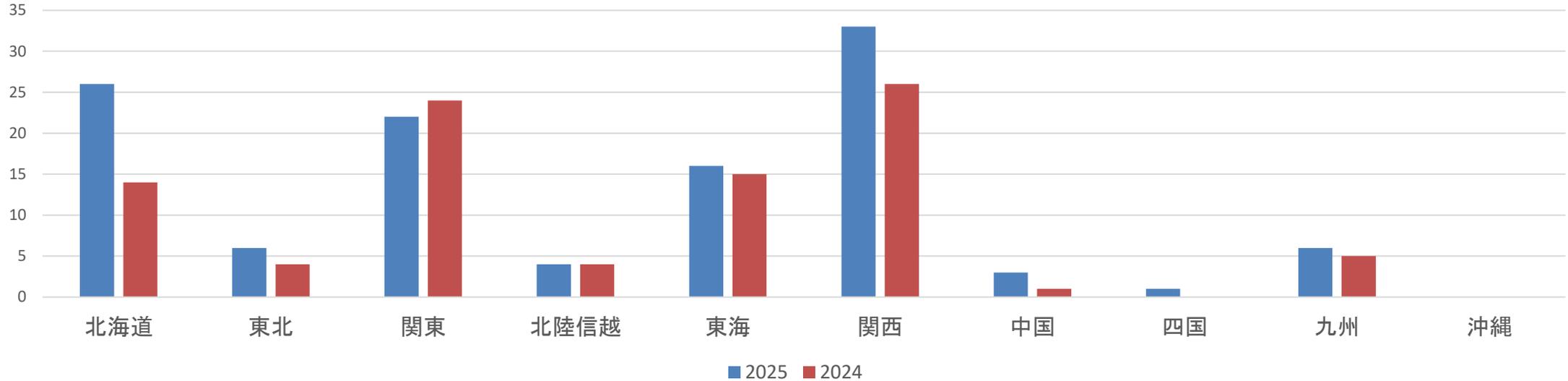


*同一主催者の複数グループが含まれている

- 夏季期間は閑散**
 夏の暑さや湿気、梅雨、お盆期間の混雑を避けるため、6月から8月は、インセンティブツアーの実施が少ない。
- 実施企業の表彰サイクル**
 マレーシアの企業の会計年度は1月から12月が多く、表彰プログラムは年度中間及び年度末の業績区切りに合わせられることから春(4~5月)と秋(10~11月)の実施が多い傾向にある。
- 春季期間が人気**
 桜シーズンと梅雨前の快適な気候、鮮やかな花や緑の景観が楽しめる5月は人気がある。

2025年マレーシア市場訪日インセンティブ旅行傾向レポート

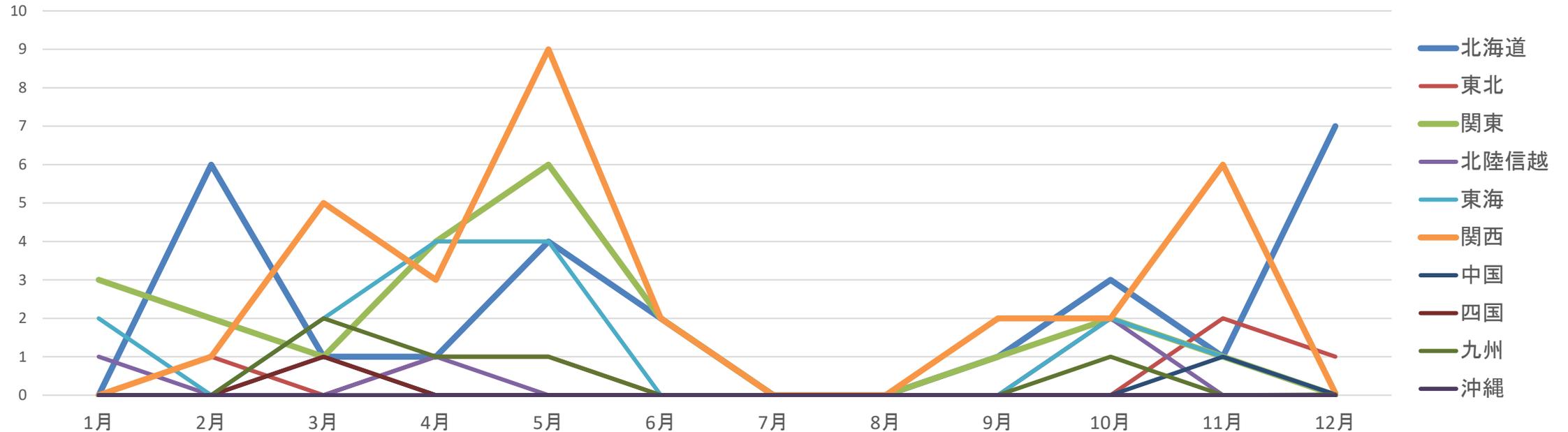
旅行先別団体数 *複数エリアを訪問した団体は各エリアに計上している。



- 関西、関東、東海、北海道はマレーシアからの訪日インセンティブ旅行に人気の旅行先となっている。認知度が高くインセンティブ向けのコンテンツや受け入れ体制が整った目的地が好まれる。
- 関東-東海-関西のゴールデンルートを移動するツアーが多く実施されているため、これらのエリアは、旅行先として選ばれやすい。
- クアラルンプールからの直行便の有無は重要な旅行先の決定要因であるため、直行便が就航している関東、関西、北海道(冬期間限定)がインセンティブ旅行先として選ばれやすい。
- 北海道は2024年と比べてインセンティブグループが約50%増加しており、冬の需要と混雑の少なさが増加の要因と考えられる。

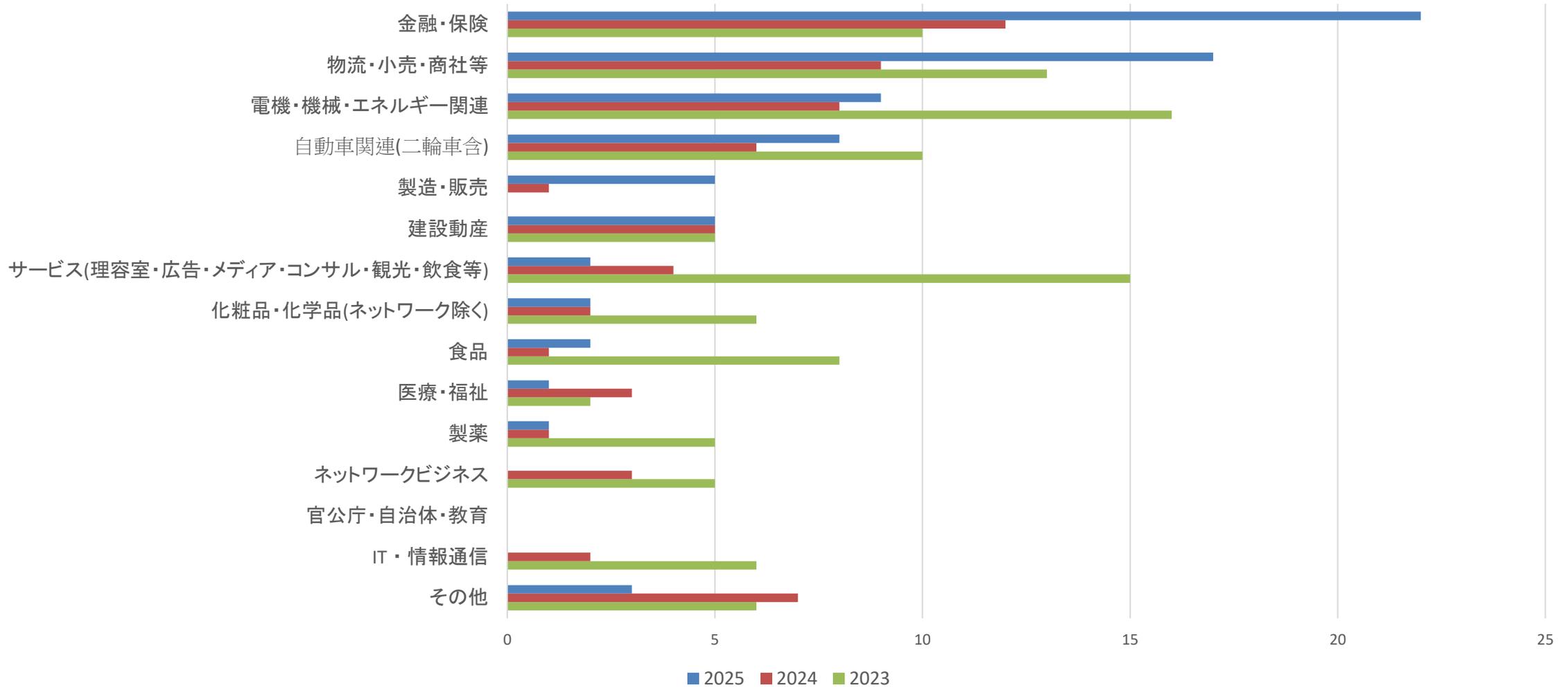
2025年マレーシア市場訪日インセンティブ旅行傾向レポート

旅行先別団体数(月別)



- 関東・関西**
 春と秋の快適な気候と、2025年大阪万博の開催により特に5月の需要が急増した。
- 北海道**
 雪のアクティビティ、冬の祭り、季節体験を軸に、マレーシアのインセンティブ市場に強く訴求するコンテンツのある2月と12月が冬季のピーク時期となっている。

業種別団体数



2025年マレーシア市場訪日インセンティブ旅行傾向レポート

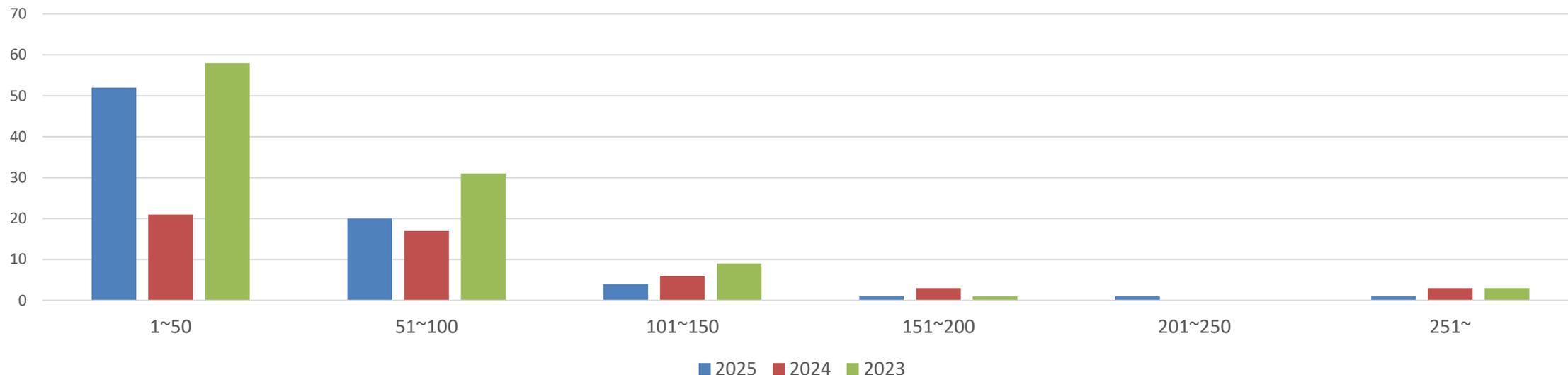
一人当たりのツアー費用 ※金額はすべて小数点以下切り上げ

2025年	総合ツアー費	グラウンドのみ	2024年	総合ツアー費	グラウンドのみ
平均値	USD 2,552	USD 1,777	平均値	USD 2,267	USD 1,609
中央値	USD 2,450	USD 1,685	中央値	USD 2,000	USD 1,520

- 2025年大阪万博の開催により関西地域の国内外の観光客が増加し、ホテル需要が高まったため、関西全域でツアー費用と稼働率が上昇した。
- 円安リングイト高により訪日インセンティブ旅行に割安感が生じた一方で、需要増による旅行代金の高騰が発生し、為替による有利さを相殺した。
- 外国直接投資の流入と安定した政策に支えられたリングイト高と国際貿易状況の改善により、企業が海外インセンティブ旅行を実施する意欲を高めた。

2025年マレーシア市場訪日インセンティブ旅行傾向レポート

一団体当たり人数



- 一般的なグループ人数**
 マレーシアのインセンティブグループの多くは20～80名で、1～2台の中型または大型の観光バスで移動できる規模である。
- 大規模グループは出発日を分散することも**
 100名以上のグループは、移動および旅行先の手配のしやすさなどを目的に、出発日を分けて実施されることも多い。

マレーシア市場訪日インセンティブ旅行の主な課題

※ マレーシアの旅行会社からのフィードバックに基づく。

- **バス運転者の労働時間規制によるバス運行時間の制限**
バス運転者の労働時間の規制により、バス運行時間の制限や交代運転者の手配による追加費用等が必要になり、ホテル以外のユニークな食事場所等の利用が制限される。
- **大型イベント開催等による車両手配のコスト増**
大人数のツアーでは複数台のバスと運転手が必要になり、万博などの長期の大型イベントが開催される年は、手配費用が大幅に増加する。
- **飲食店の収容能力**
日本の多くのレストランは小～中規模のため、80～100名以上のグループを収容できる施設が少なく、グループを分割するか複数の時間帯に分けて利用する必要がある。
- **現地ランドオペレーター情報の不足**
主要都市以外の旅行先では現地ランドオペレーターの情報に限られており、主要都市のランドオペレーターを利用する必要があり、コストが上がるとともに緊急時の現地対応が遅くなるリスクが高まる。

【問い合わせ先】

JNTOクアラルンプール事務所

MICE担当者:

新吾 元規、Noora Ali、Tan Hong Hong

メール: info_kul@jnto.go.jp

電話番号: +603-2712 4770